

第 24 回警察署協議会連絡会議事録

1 開催日時

令和 7 年 1 月 22 日（水）午後 3 時 30 分から午後 5 時 00 分まで

2 開催場所

広島県警察本部

3 出席者

- (1) 警察署協議会 25 人
- (2) 公安委員会 5 人
- (3) 警察本部 11 人

4 概要

(1) 公安委員長挨拶

公安委員長より、

- 日頃から警察署の業務運営に対し、格別の御理解と御支援を賜り、活発な協議会運営に御尽力いただいていることに感謝申し上げます。
- 各協議会において、特殊詐欺被害防止を始めとする防犯活動へのアプローチ、子供の通学路対策等の交通事故防止対策や自然災害に対する防災活動等、多くの住民が不安に思われていることについて、活発な意見が交わされていると承知している。
- 本日の連絡会では、各協議会の取組について、複数の協議会から事例発表を行っていただくことになっており、大変楽しみにしている。
- 忌憚のない御意見を交わしていただき、今後の各協議会の場で活かしていただきたい。

旨の挨拶があった。

(2) 警察本部長挨拶

警察本部長より、

- 日頃から警察署の業務運営に対し、格別の御理解と御支援を賜り、活発な協議会運営に御尽力いただいていることにお礼申し上げます。
- 昨年の県内の治安情勢については、刑法犯認知件数は令和 3 年以降 3 年連続で前年比増となっているほか、SNS 型投資詐欺等が増加し、全国的に闇バイトによる凶悪犯罪が多数発生するなど、予断を許さない状況である。
- また、交通事故死者数は、統計が残る昭和 23 年以降で最小の 68 人となり、各種交通事故抑止対策の成果がみられる一方で、死者数全体に占める高齢者の割合が約 6 割と高い水準であり、また昨年取組を強化した暴走・爆音走行についても、通報件数が増加するなど、今後の動向を注視すべき状況である。
- 本年、県警察では、「安全・安心を 県民とともに築く 力強い警察」を基

本方針とし、その方針の元、運営重点を掲げて活動しており、先日開催した県下警察署長会議において、この基本方針と運営重点を基に各種課題に果敢に取り組んでいくよう指示したところである。

- 今後、各協議会において、警察署長から、地域の実情に応じた方針や対策などを説明させていただき、皆様の御意見・御提言を頂く場面もあろうかと思うので、よろしくお願い申し上げます。
- 本日は、各協議会の取組などについて、5協議会から事例発表があると聞いている。忌憚のない御意見・御感想をお聞かせいただき、各協議会における今後の取組の参考にさせていただきたい。

(3) 講演

警備部機動隊長から、「令和6年能登半島地震～災害救助活動の実際」と題して、令和6年能登半島地震における警察の災害対応部隊や派遣の概要、被災地での活動状況等について、パワーポイントや動画を使用して講演が行われた。

(4) 事例発表

各協議会の実施状況について、次のとおり、5協議会の代表から事例発表があった。

ア 安芸高田警察署協議会

安芸高田警察署協議会から、昨年、当連絡会に出席して各協議会の取組を知り、当協議会でもぜひ何かやってみようということで、今回の取組となった旨説明があった。3件の取組についてパワーポイントを使用して発表が行われ、まず最初に、「特殊詐欺被害防止等に関する広報施策の実施」と題して、

- 委員から「特殊詐欺対策として子、孫世代による取り組みを行えないか。」と警察に提言したところ、詐欺被害防止の広報用アナウンスデータを作成することとなり、地元の中学生在が、「親や祖父母を詐欺被害から守りたい。」という思いを込めて一生懸命録音作業を行ってくれた。

旨の発表があった。

次に、「防犯川柳による広報について」と題して、

- 「特殊詐欺を知る」ということが被害防止に繋がると考え、委員から広報用の防犯川柳の作成を提言し、防犯教室の参加者や安芸高田警察署員に川柳を作成して貰い、警察署の広報紙に掲載して貰った。

旨の発表があった。

最後に、「警察と協議会が協働した、大型商業施設における啓発活動の実施について」と題して、

- 協議会・警察署・安芸高田市・地元幼稚園などが協働した防犯イベントを開催した。
- 安芸高田市のマスコットキャラクター「たかたん」に一日警察署長となってもらい、年金支給日に合わせて、委員も県警マスコット「モシカ」「メイプル君」や園児と共にATM機前で防犯チラシの配布を行った。

旨の発表があった。

イ 尾道警察署協議会

尾道警察署協議会から、「自転車盗難防止対策について」と題して発表があり、

- 令和6年度第1回協議会において、警察署から、多発している自転車盗難被害への対策として、被害の多くが無施錠の自転車であることから防犯タグを取り付け注意喚起を行う取組を実施している旨の報告を受け、委員から、「防犯タグをつけるという方法は目印になって悪用されないか。」、「自転車盗難被害者の学年別分析結果はあるか。」、「自転車の鍵かけ指導を新入生入学説明会で行ってはどうか。」、「被害者に鍵を掛けなかった理由を聞くことで被害時の行動や気持ちが分かるのではないか。」などの意見が出た。
- 令和6年度第2回協議会において、尾道警察署から、
 - ・ 防犯タグの活用を始めてから、自転車盗の認知件数が減少しており、また、防犯タグを悪用されたケースの把握はない。
 - ・ 高校生被害が最多で、場所別では、駅周辺の駐輪場が最多である。
 - ・ 今後、学校側の協力を得て、新入生説明会での防犯指導等を実施する。
 - ・ 被害届受理時に「無施錠」の理由を聴取して分析を行った結果、無施錠の原因として、鍵のかけ忘れが最多であった。

などの報告があった。

- 尾道警察署では、委員からの提言を受け、
 - ・ 被害の多い高校生と協働で駅周辺の駐輪場でのチラシ配布や防犯指導等の被害防止活動を実施
 - ・ 尾道市内の高校放送部の協力を得て、音声広報CDを作成し、商店街などで被害防止広報を実施
 - ・ 尾道市内の学校に要請し、新入生説明会での自転車盗難被害防止の防犯指導、広報を実施予定
 - ・ 防犯タグによる被害防止対策は、効果が確認できたことから継続実施
 - ・ 尾道駅周辺の駐輪場に人感センサー式広報スピーカーを設置し、被害防止の注意喚起を実施

などの取組を行った。

旨の発表があった。

ウ 海田警察署協議会

海田警察署協議会から、「各種機関・団体合同による犯罪抑止、交通事故防止パレードの実施について」と題して、

- 昨年度の協議会において、委員から「地域住民が行っている夜間の防犯パトロールに署員の方も参加してもらえないだろうか。」と要望があり、海田警察署の制服警察官が快く参加してくれ、住民の方々も大変心強く感じたと同った。
- その後海田警察署から、「警察と安芸地域の住民の方々とパレードを兼ねたイベントをやりませんか。協議会の方も是非参加をお願いします。」と委員全

員に声が掛かり参加したが、委員の活動や意見を基に警察とともに地域のために貢献ができることの素晴らしさを感じた。

- イベント当日は、安芸区長等の安芸地区の各首長の出席を始め、各関係機関、団体が一堂に会し総勢約 150 人が集まり、年末・年始に向けた犯罪抑止・交通事故防止活動の連携強化を誓い合った。
- また、地元安芸区出身である、元プロサッカー選手（サンフレッチェ広島）の森崎和幸さんが一日警察署長となり、平素からサッカー指導を受けている子供たちも参加し、サッカーに関するゲームなどを通じて特殊詐欺や自転車の交通安全に関しクイズ形式で学び合った。
- その後、参加者全員が白バイやパトカーの先導で、犯罪抑止・交通事故防止等を地域住民の方々に訴えながら、約 1 k m のパレードを行い、私も沿道にいた知り合いから温かい声援を受け、誇らしく感じた。
- こういった地元の人々と警察が一緒になって触れ合いながら、防犯意識や交通安全意識を高めるイベントは重要で必要だと思う。

旨の発表があった。

エ 廿日市警察署協議会

廿日市警察署協議会から、「警察署協議会委員からの要請により、防災イベントを共催した事例について」と題して、

- 今回行ったのは、私が地域住民からの要望を聞き、最善の方法を考え、警察との橋渡しをしたこととなる。
- 市民センターの館長から、自分の身は自分で守る力を身につけるため、実際に災害現場で活動した経験のある方の話を夏休み期間中に子供に聞かせたいという相談を受け、廿日市警察署に相談し、市民センターとの調整の上、イベントを実施することとなった。
- 夏休み期間中に廿日市警察署において、小学生やその保護者等が参加するイベントが開催された。災害派遣経験者の講話や豪雨災害時の写真パネル展示、警備部機動隊の水陸両用車両等の見学や装備資機材の着装体験といった内容で行われ、災害について改めて考える良い機会になるなど、有意義な防災イベントとなった。

旨の発表があった。

オ 三原警察署協議会

三原警察署協議会から、「バイク爆音走行及び少年い集対策について」と題して、

- 昨年春頃から、三原市内の観光スポット等で、少年等によるバイクの爆音走行や飲酒、喫煙等の迷惑行為が見られるようになり、令和 6 年度第 1 回の協議会において、委員より、「三原バイパス付近においてバイクが爆音を立てて走行しているが、何か対策はないか。」と対策について提言した。
- 交通課・地域課・生活安全課で連携し、深夜時間帯に警戒に当たり、無免許運転や改造バイクの検挙はもちろんのこと、小さなことでも、その場限り

の注意で終わらずに、積極的に事件化を行った。

- 検挙又は補導された少年等へ反省を促す措置として、保護者に対して観護等の指示を行い、適切な観護が見込めない少年については、児童相談所での保護措置を取った。
- 押収した改造バイクを返却する際には、修理業者を手配させ、修理工場に搬送の上、爆音にならないよう、マフラーの取り換えを徹底した。
- 夏休み期間となる7月及び8月はバイク爆音走行等の迷惑行為が懸念されたが、対策が功を奏したのか、三原市内の110番通報はそこまで増大せず、私も平穏な夜を過ごすことができたと感じた。

旨の発表があった。

(5) 質疑応答

江田島警察署協議会から、

- 安芸高田警察署協議会から発表があった商業施設でのイベントでは、子供用の警察官の制服を着ていたが、着用に当たり、警察から特別に委嘱を受けたのか。また制服製作費はどこから出ているのか。

旨の質疑があり、それに対し警察側から、

- 子供が制服を着る際に特に委嘱等の制度はなく、イベント等で要望があれば、警察を通じて御用命いただきたい。

旨の回答があった。

(6) コメント（講評）

ア 警察本部長

警察本部長から、

- 皆様方には、地域住民の代表として御助言・御提言いただきしており、我々としても気づく点が多々ある。
- 皆様を通して地域の方々と協力しながらイベントを行うことで、防犯意識を高めたり、サイバー治安等の改善につながるので、地域の必要に応じた声を聞かせていただきたい。お声がけいただければ、我々も可能な限り協力していきたい。
- 本日は、非常に貴重な御意見をいただき、感謝申し上げます。

旨のコメントがあった。

イ 公安委員長

公安委員長から、

- 各協議会の取組を拝聴する中で、地域住民の方をととてもいい形で取り込んでいると感じた。
- 幼児や中・高校生に頼んで広報活動を行うなど、世代間の交流をされておられることや廿日市警察署協議会からも「みんなと一緒に」という言葉が出たが、非常に良いことだと感じた。
- 防犯川柳の取組は、非常にコストパフォーマンスが良いと感じた。川柳を作る行為が、犯罪行為を自分事として考えることにとても役立つと思う。自

分は大丈夫だと思う、ある意味認知のゆがみが詐欺被害の予測要因となっているのが、心理学の研究でも明らかとなっているので、自分事として考えてもらうことは重要であると感じる。加えて高齢者の方が考えることは、認知の衰えを予防することにもつながると思うので、一石二鳥の取組であると感じた。

旨のコメントがあった。